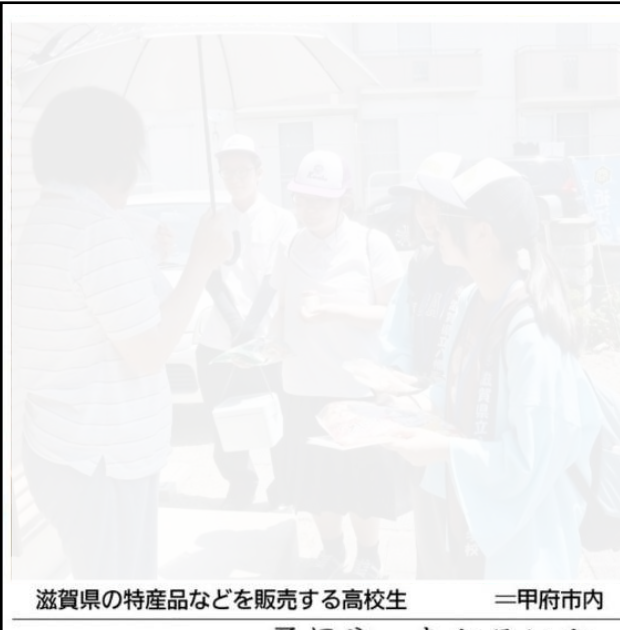


年 組 名前：



滋賀県の特産品などを販売する高校生

＝甲府市内

「近江商人」の精神 甲府商高生と学ぶ

滋賀の高校生、特産品を移動販売

甲府商高と滋賀・八幡商高の生徒は23日、甲府商高周辺で、滋賀県の特産品などを移動販売した。近江国（現在の滋賀県）から出て活動した「近江商人」の精神や商法を学ぶ八幡商高のプロジェクトの一環で、甲府商高と連携して実施するのは初めて。

プロジェクトは、近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の精神や、訪問地の特産物を仕入れて次の訪問地で販売する「産物廻し」について体験を通して学ぼうと、八幡商高が15年前から取り組んでいる。山梨には、1812（文化9）年に甲府柳町で小間物商を立ち上げた近江商人の塚本定右衛門がいたことなどを踏まえ、甲府商高にプロジェクトへの参加を呼びかけた。

同日は、八幡商高の生徒25人と甲府商高の生徒18人が4、5人のグループに分かれ、住宅街などを巡って、滋賀県近江八幡市の名物「赤こんにゃく」や甲府商高生が開発したフルーツバター「ラウレアバター」などを販売した。甲府商高1年の植松瞳さんは「お客さんのさまざまな反応を想定して話すことを考えていたけれど、実際にやってみると難しかった。商品が売れたときは本当にうれしかった」と話した。

八幡商高は20日から大阪府や愛知県を巡っていて、24日に静岡県を訪れ、同校に戻る予定。

（山本昂輝）

（2026年7月24日付 山梨日日新聞23面）

問1 「近江商人」の「三方よし」の精神とは、どのような意味を持つ考え方でしょうか。

.....

問2 「産物廻し」とは、どのような販売方法ですか。

.....

問3 滋賀県の八幡商高が、甲府商高にプロジェクトへの参加を呼びかけた理由を答えてください。

.....

問4 両校の生徒は、住宅街などを巡って、何を販売しましたか。

.....